No.78
31st May 2024

NEWSLETTER
国際音楽資料情報協会日本支部

ISSN 2432-6135
(online)

International Association of Music Libraries, Archives and Documentation Centers, Japanese Branch

第 74 回支部例会報告・日本 ISMN コードセンター事業紹介

【目次】

○第 74 回支部例会報告
講演要旨（信時 裕子）p.1
傍聴記（高柳 紅仁子）p.4
○ISMN コードセンター事業紹介（岩本 京子）p. 6
○事務局だより p.10

第 74 回支部例会報告

【講演要旨】

Website「信時潔研究ガイド」を巡って

作曲家・信時潔（1887-1965）の研究を始めて、随分時間がたった。家族や伯父、伯母などから話を聞いているが、私自身は祖父・信時潔と直接話をした記憶はない。大学の卒業論文のために、伯父（著作権継承者）の家にあった信時潔の作品の自筆譜や印刷譜、また各図書館所蔵の出版譜や録音資料の情報、その他関連記事情報などを集め、「信時潔作品目録」を試作した。限られた時間では調べ切れないことが多く、その後も少しずつ調査を続けていた。

1. 信時潔没後 40 周年記念と Website 開設

2005 年は、信時潔没後 40 年にあたり、その記念に本や、CD を出したいという相談が相次ぎ、それでは私も何かやらなくては思い立った。そこで取り組んだのは絶版になっていた春秋社版の信時の楽譜三冊の復刻だった。復刻を喜んでくださった声楽家の畑中良輔先生は、ご自身が主宰する「青の会」で、信時潔没後 40 年のコンサートを企画してくださった。これらの「没後 40 年」企画の情報をまとめ、紹介をするために、ホームページを作ってみよう、とスタートしたのが Website「信時潔研究ガイド」だった。

当時は卒業論文も手書きだった。ワープロやパソコンは卒業後に、少しずつ覚えていったものの、詳しいわけではなかった。確か WindowsXP のパソコンを購入したときに、ホームページ Ninja というおまけソフトが付いて来て、それで作ってみたのが、このページだった。【図 1】

【図 1】開設当時のトップページ（2005）

サイトの名称は、あまり深く考えずに決めてしまったものだが、「私が信時潔について研究します」、「私の研究結果を発表します」ではなく、これから研究する人、演奏する人などに必要な情報を提供したい、書誌情報、目録的なものを公開したい、という気持ちを「ガイド」と言う言葉に込めていたように思う。

2. 表組の限界から、データベース機能を持つ CMS へ

【図 2】は、開設から数か月後に作成した関係文献目録のページだが、ホームページソフトの表組で作っていたので、ひとマスずつ、文字を書き込んでいた。新しく見つかった文献を一件ずつ追加する程度は、この方法で対応できたが、次の段階で校歌約 900 曲を一斉公開する際には、それでは対応しきれなくなった。そこで、マイクロソフトのエクセルで作成して html で保存して、それをアップロードするという方法を考え出した。

【図 2】関係文献目録のページ

ホームページサーバーと OS、作成ソフトがどう変わって来たか、全く忘れていたが、今回思い出しながら書き出してみた。【表 1】

年	事項	URL	Windows	作成ソフト等
2005	ホームページ公開(ケーブルTV会社のサーバー)	http://home.netyou.jp//ff/nobu/	XP	ホームページNinja
2009	[※東京藝術大学附属図書館に信時潔文庫設置]		7	(ホームページビルダー移行断念)
2013	[※東京藝術大学信時文庫整理(～2017年3月)]		7～10	
2016	Sakuraサーバーに移転、CMSでサイト構築、リニューアル	http://www.nobutoki.sakuraweb.com	10	NetCommons2 (CMS) [移転委託]
2021	NetCommons 3へのバージョンアップを断念、CMS変更、サイトリニューアル、サーバー移転、独自ドメイン取得	https://nobutoki.com/	10	Connect-CMS (CMS) [移転委託] [サーバー管理委託]

【表 1】ホームページサーバー、OS、作成ソフトの変遷

2005 年のスタートから、2024 年まで、Windows も XP から 7、10 と変遷し、契約サーバーもその時々の事情で 3 回移転した。ホームページ Ninja と言うホームページ制作ソフトでスタートしたが、上述の通り「表組」の限界を感じていたところ、データベースの機能が簡単に使えることから NetCommons2 に切り替え、更に現在の Connect-CMS を使用するに至った。OS も、ソフトも、新しいサービスが生れ、セキュリティ上も古いバージョンが使えなくなるので、このような更新や乗換えは欠かせない。

3. サイト構成と検索機能介

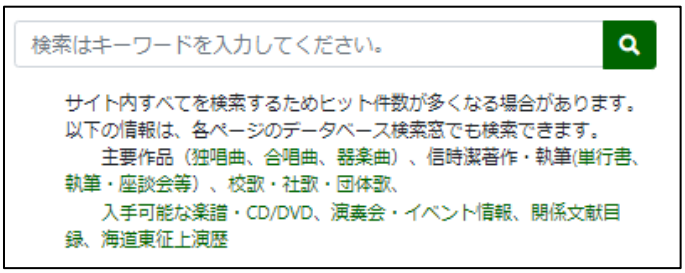
ここで、現在の「信時潔研究ガイド」のページを見ながらその構成や内容を紹介したい。

https://nobutoki.com/

パソコンで表示した場合には、左側に【図 3】のようなインデックスが表示され、クリックするとそれぞれのページが表示できる。

サイト全体の上部には、検索窓があり、サイト内の検索ができる。(【図 4】) また、たとえば「独唱曲」や「校歌」などの、それぞれのページにも、検索窓があり、対象となるページ内に限った検索もできるようにしている。

【図 3】Web サイトのインデックス



【図 4】サイト内キーワード検索ボックス

4. 制作の裏側～データベース管理画面の紹介

制作の裏側を少しお見せすると、例えば独唱曲のデータベースは、このようにタイトル、作曲年、などの項目名、型、配列の順や行数、列数などを指定していく。【図 5】

【図 5】データベース設定画面

更に、それぞれの項目の詳細の設定画面では、各種画面で表示するかしないか、並べ替えするか、検索対象にするか、などを指定する。【図 6】一度設定しても、後から項目の増減、設定内容の変更もできるようになっている。

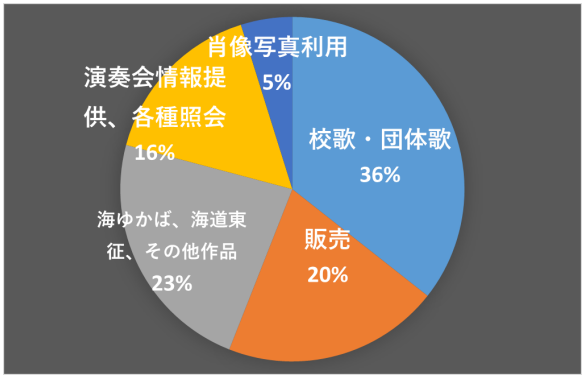
【図 6】各項目の詳細設定画面

サイト内には、このようなデータベースが全部で 20 ほどある。データを一件ずつ登録することも可能だが、CSV ファイルで一括アップロードしたり、またサイトのデータをダウンロードして、修正作業をしてから再度アップロード（インポート）することもできる。【図 7】

【図 7】データベースファイル操作画面

5. お問合せフォームの受付履歴

サイト開設以来、様々な問い合わせを受けてきた。最初の頃は専用のメールで受け付け、最近はお問い合わせフォームで受け付けている。今まで受けた問合せ全 393 件を【図 8】にまとめた。一番多いのは、校歌、団体歌の問合せで、全体の 36%。信時潔が作曲した校歌は約 900 曲ある。校歌の楽譜を確認したい、学校の年史に楽譜を載せたい、などが多い。次に、販売とあるのは当時対応していた、自主制作の楽譜複製版など、一般に流通にしていないものを実費で頒布していたため、その問合せが 20%。（最近は楽譜店の協力もあり少なくなった）。その次は海ゆかば、海道東征、その他の作品に関する問合せが 23%。信時作品演奏会情報の提供、その他様々な照会が 16%。放送や出版関係者から、信時潔の肖像写真の提供を依頼されることもある（5%）。



【図 8】問合せ受付内容の割合（2005~2023 年、全 393 件）

インターネット時代、疑問があれば WEB 上で検索してたどり着く時代だからこそ、全国各地から質問が寄せられ、お答えしているが、中には、思いがけない出会い、例えば今まで全く接点がなかった遠い親戚からメールが届いたり、他のジャンルの研究者から意外な情報が寄せられることもあった。

6. 東京藝術大学附属図書館、信時文庫貴重楽譜データベース

信時潔の作品研究に必要な資料は、ほとんど東京藝術大学附属図書館の信時潔文庫に揃っていると言ってよい。潔の著作権継承者から寄贈されたもので、作曲者本人が直接関わった資料（手稿譜、初版譜、著書）、および音楽関係の蔵書など、作曲者の手元に残っていた資料群である。（書簡や日記など、私的な資料は寄贈者の意向で寄贈されていない。）

それらのうち、作曲作品関連の資料については、科学研究費助成事業「信時潔に関する基礎的研究――作品・資料目録データベースの作成と主要作品の研究」によって整理され、データベースが公開されている。手稿譜（自筆譜、筆写譜）、初版譜などの目録と、著作権上の問題がない場合はその画像まで WEB 上で閲覧できるデジタルアーカイブである。そのデータ作成に、私も研究協力者として参画したが、公開後のデータベースの維持管理は、東京藝術大学附属図書館で行っている。同図書館では、旧来の図書資料

（書籍、楽譜、視聴覚資料）の蔵書目録のほかに、複数のコレクションのデジタルアーカイブを公開中である。どちらも図書館の目録として、将来たとえ担当者が替わっても、あるいはシステムの更新やデータ移行が必要になっても、力を尽くして継承していってくれるだろう。

7. 個人制作 Web サイトの限界と今後

一方、私のホームページは、といえば、私が Web サーバーを借りて制作、維持、管理しているが、その後継者は居ない、つまり永続性が保証されていない。それが、個人が管理する Web サイトの欠点であり、限界である。

国立国会図書館の活動の一つに、インターネット資料収集保存事業（WARP）があるが、これは公的な機関が対象で、個人制作のサイトは対象とされない。念のため担当部署に直接問い合わせたが、私のサイトが、作曲家研究の資料データベースであっても、対象にはならないと言われた。

だとすると、やはり「作品目録」「文献目録」「資料集」のような印刷物=紙資料としない限り、せっかく集めてまとめた資料・情報は、Web サイト公開ができなくなると同時に、利用も、内容確認もできなくなってしまう。では、出版物の刊行に踏み切れるか、と言うと、時間、労力、そして資金力、すべてに余裕がないと、実現が難しい。

今回の講演会当日、参加者の柳澤健太郎氏（国立国会図書館）より、WARP では個人サイトの収集をしないが、それとは別に「オンライン資料収集制度（e デポ）」というのが動いていて、PDF や ePUB など、ファイル形式の基準を満たすと、そちらの枠組みに乗る可能性はあるのではないかという情報が寄せられた。おそらく数百ページになるであろう「作品目録」を、「印刷物として出版」するには、かなりの費用もかかるが、それを PDF などで「電子出版」して「納本」することができるというのは、朗報であった。

現在の Web サイトの管理、更新だけでなく、もっと調べたいこと、書き残したいことがある。今までに集めた証言や、伝記的な事項も、そろそろまとめなくてはいけないと感じている。何から実現するか、実現できるのか、考えながら取り組んでいきたい。

（信時（のぶとき）　裕子（ゆうこ））

東京音楽大学付属図書館

【傍聴記】

第 74 回例会では、東京音楽大学付属図書館の信時裕子氏より website「信時潔研究ガイド」について、維持管理や利用状況の説明を中心に発表された。

1. 個人で運営している現状

「信時潔研究ガイド」は 2005 年からご子孫である信時裕子氏がライフワークとしてスタートし、主要作品、信時潔著作・執筆、校歌・社歌・団体歌、入手可能な楽譜・CD・DVD、演奏会・イベント情報、関係文献目録、海道東征上演歴、雑記帳（Q&A）、リンク集などから構成されている。

信時潔は、明治生まれ、大正－昭和中期の作曲家である。講師・裕子氏もお薦めの「うるわしきあさも　阪田寛夫短篇集[1]」では、実像に比較的近く、裏付け資料に基づいた人物像が描き出されていて、著者の体験を通じて信時潔の生前像が生き生きと描かれている。

「信時潔研究ガイド」での情報管理、発信、website の構築、関係者との交流などをこつこつと積み重ねられた結果、信時潔という人物へのアクセスは、この website を利用することが一番の近道となっている。ウィキペディアの信時潔のページ（日本語版）では、資料を紹介する項目の先頭部分に「網羅的データに関しては、外部リンク中の「信時潔研究ガイド」を参照」との記載がある[2]。

裕子氏の図書館や専門機関でのご経験、人脈や知識が活かされ、新技術も柔軟に取り入れられ、同 website は日々成長し続けているが、その情報価値と維持管理の労力は個人レヴェルの域を超えている可能性がある。その運営をお一人で今後も続けることは相当な強い意志とエネルギーを必要とするだろう。社会的に貴重な活動（データベース）は持続可能な形で承継されるべきである。

2. 「信時潔研究ガイド」の役割

「信時潔研究ガイド」の役割について、信時潔の研究をしたい方、音楽を聴きたい方、演奏をしたい方、それらの案内役になりたい、と裕子氏は発言されている。この website はライブラリアン的な活動に似ているという説明であった。

信時潔が亡くなって 60 年近く経つが、 website に最新情報（演奏会・イベント情報を含む）が日々更新され利用され続けることは、社会への認知度向上に貢献し、令和の現在でもその印象は劣化せず鮮明であり続けている。

「信時潔研究ガイド」を始めとする裕子氏の一連の活動は、「信時潔の広報」の役割をも果たしていると言えるかもしれない。企業でも広報活動があるが、企業情報を社内外へ発信することで企業と社会、個人との良好な関係性を構築する役割を果たし、自社ブランドを正しい認知で社会に広め、ブランドイメージを確立することを目指している。

その活動によって構築される個人や組織との良好な関係性が、裕子氏の今後の活動を円滑にし、事業承継へ導くことを期待したい。

3. 「信時潔研究ガイド」の今後

「信時潔研究ガイド」をいかに引き継いでいくのかという課題が挙げられ、質疑応答ではいくつかの具体的な案が出された。

- ●国立国会図書館「オンライン資料収集制度」のような、データ保存という方法も含めた引受機関を探す（IAML 日本支部会員 柳澤氏からの情報提供による）
- ●東京藝術大学など各機関で分担作業となっている現状を踏まえ、可能な機関が分担で引継いでいく方法を視野にいれ、引受先を探す
- ●自費で運営している部分など、クラウドファンディングを利用してはどうか　(IAML 日本支部 加藤副支部長からのご提案)

裕子氏からは、今後の課題として、蓄積した情報を紙媒体の文献目録・作品目録で残すこと、伝記的事項、証言の収集が挙げられた。

質疑応答で IAML 日本支部役員 田中氏が発言されたように、活躍当時の信時潔に近い人物が存命であるということは非常に貴重な状況で、月並みなインタビューやアンケートでは引き出せない証言も、裕子氏自身が親族であるという事実、ご自身のお人柄、そして何より真摯に活動される姿勢への評価があればこそ、時間の制限はありつつも歴史的価値の高い、人間的でリアルな情報を得られるのではないだろうか。

また、承継機関が複数に分かれてしまいワンストップでの情報検索や管理が出来なくなる可能性も否定できない。仮に機関が分散されても、検索により希望する資料（データ）にたどりつくことが重要である。発見可能性を高めるために、高性能なメタデータ用システム構築の実現も求められる。

今回の発表で、主要な一次資料はほとんど揃っていると言われる東京藝術大学附属図書館の信時文庫にも無い資料があることが分かった。原資料の所在情報や現状の把握、私的な資料（日記書簡写真など）の取扱いは寄贈者の意向に左右されることなど、歴史的資料を扱う繊細な活動が続けられており、承継機関にも同等の対応が求められるだろう。

4. 最後に

貴重な（意義のある）研究の維持、継続のためには、IAML 日本支部の会員や研究者による協力も大切に思いました。

今回、ご子孫である信時裕子氏から「作曲家・信時潔」のお話を直接伺えるという機会をいただき、裕子氏を始め、例会開催にご尽力くださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

裕子氏にはお体に気をつけて存分に広報活動を続けていただきたい、というのが個人的な思いです。

5. 参考資料

「信時潔研究ガイド」では独自フォーマットで整合性を図っていますが、共同目録を意識した場合には国際標準の目録規則、フォーマットの適用が必要と考えます。

次頁冒頭に、例会の主役のお二人について、ToccataMARC の個人名典拠ファイルにおけるデータを示します。

●信時潔［典拠 ID: a85012408］
（リンク MARC　127 件： 楽譜、CD、カセット、LP）

●信時裕子［典拠 ID: a01603225］
（リンク MARC： 「バッハに非ず」）

01933axm n x 2200458　0027
001 00　a85012408≠
005 00　20201020135756≠
010 00　$a00000000083737841≠
020 00　$an　93099521 $uhttps://lccn.loc.gov/n93099521≠
035 00　$a(DCoLC)oca03472861≠
035 01　$a(VIAF)38592371≠
035 02　$a(NDL)00055971≠
035 03　$a(NIIDA06945330≠
100 00　$a19850524 a axxax　aax0 jpn≠
102 00　$aJP≠
120 00　$ab≠
180 00 0 aUSbDLC≠
180 01 1 aUSbDLC≠
180 02 2 aUSbDLC$c20101208≠
180 03 2 aJPbTOC$c20201020≠
A0A 00 1 $wn 20140629 ad001x　x x $aNobutoki$bKiyoshi$fl887-1965≠
A0K 00 1 $wn 20140629 zd002x　x x $A信時$B潔$F１８８７－１９６５$aノブトキ$bキヨシ$f1887-1965≠
C10 00　$wn 20201020 zd003x　x x $aOsaka (Japan) = 大阪 (日本)$bKokubunji-shi (Japan) = 国分寺市 (日本)≠
C12 00　$wn 20201020 zd004x　x x $aMusic = 音楽$2lcsh/tmsh≠
C14 00　$wn 20201020 zd005x　x x $aComposers = 作曲家$2lcdgt/tmdgt$0[occ]dg2015060391≠
C15 00　$wn 20201020 zd006x　x x $cJapanese = 日本人$2lcdgt/tmdgt$0[nat]dg2015060347≠
C60 00　$wn 19850524 zz007x　x x $aa-ja---≠
C61 00 24 $wn 20110714 zz008x　x x $bd18871229$bd19650801≠
C76 00　$wn 20100511 xx009x　x x $v20$a780.92$cBiography≠
C78 00　$wn 20100511 ax010x　x x $aML410.N73$cBiography≠
CB0 00　$wn 19920325 zx011x　a b $3a91039231≠
E0A 00 1 $wn 20201020 zz012x　x x $7ba0yca0y$8engrus$aНобутоки$bКиёси$fl887-1965≠
E0A 01 1 $wn 20201020 zz013x　x x $7ba0yka0y$8engkor$a노부토키 키요시$fl887-1965≠
E0K 00 1 $wn 20130222 zz014x　x x $A信時潔$F１８８７－１９６５$aノブトキ キヨシ$f1887-1965≠
F00 00　$wn 19920325 xx015x　x x $a信時潔作品集 [SR] 1991≠
F00 01　$wn 20020627 xx016x　x x $a音楽家人名事典, 1991$b信時潔 (のぶとき・きよし); 作曲家; 明治２０[１８８７]年１２月２９日生まれ; 昭和４０[１９６５]年８月３１日没; 京都市出身≠
F00 02　$wn 20110714 xx017x　x x $a木下保の藝術 [SR] 2011 (解説)$b信時潔 (のぶとききよし); １８８７年１２月２８日大阪生まれ; １９６５年８月１日死去, ７７歳≠
F00 03　$wn 20201020 xx018x　x x $a信時潔研究ガイド WWW site, 2020-10-20$b信時潔年譜: 1887年12月29日, 大阪生まれ; 1965年8月1日, 東京都国分寺市本多の自宅で死去; 作曲家≠
F00 04　$wn 20100511 xx019x　x x $aLibrary of Congress authority record:RLIN MAHSRC36962-C$bhdg.:Nobutoki, Kiyoshi, 1887-1965≠
F00 05　$wn 20110708 xx020x　x x $aLibrary of Congress Name authority record:n 93099521, Last rev. DLC 2010-12-08$bpreferred form of access point: Nobutoki, Kiyoshi, 1887-1965≠

（1）阪田寛夫. うるわしきあさも 阪田寛夫短篇集. 講談社, 2007, p.226-261: 海道東征

（2）ウィキペディア フリー百科事典「信時潔 (日本語版). 資料」を参照 (accessed 2024-04-03) https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BF%A1%E6%99%82%E6%BD%94#

（高柳　紅仁子）

株式会社トッカータ 図書館情報部

ISMN 国内機関発足と JIS 化による楽譜情報の新たな取り組み

はじめに

ISO 10957・ISMN コード（以下 ISMN）は、IAML の提案によって ISBN から新たに開発され[1]、1993 年より世界で利用されている音楽出版物に付与されるコードです。

楽譜は書籍と異なります。最も大きな違いは以下の三つです。まず、楽譜は、スコアとパート譜、版の違いや原曲とアレンジ、紙とデジタルなど、同一のタイトル・著作者・出版社であっても、内容や形状が異なる出版物が多数あることです。次に、楽譜は“読むこと”が目的ではなく、音楽を再現する道具であり、楽譜の区別は音楽や音そのもの違いを生み、音楽著作物を特定します。最後に、楽譜は、楽譜から生じる音楽を使用した二次利用、三次利用産業に直接影響を及ぼす出版物であることです。これらの違いから、ISBN とは異なる楽譜コードである ISMN は開発され、世界ではこの ISMN を楽譜に付与し流通で利用されてきました。

日本では、世界より遅れること 30 年ですが、2020 年に日本の国内機関が発足し、2023 年に ISMN が JIS 化され、今日、世界標準の楽譜情報のインフラが日本でも整いました。

ここでは、ISMN コードの概要[2]、日本 ISMN コードセンターと日本産業規格 JIS（JIS X0309）化、そして現在実施中の改訂についてご紹介いたします。

1. ISMN コードの概要

ISMN（International Standard Music Number:国際標準楽譜番号）は楽譜に付される 13 桁のコードであり、登録者の所在国・出版社・楽譜・版などを識別し、世界 90 カ国以上で使用されています。

1.1　管理と機関

ISMN の管理は、国際機関[3]、国内機関および登録者による三段階で行われます。国際機関は、ISMN の使用の管理監督、国内機関の承認、国際的な ISMN の利用促進、国内機関による ISMN 利用促進の支援を行います。

ISMN の国際会議は、毎年 9 月に ISBN 国際会議と連続した日程で実施されます。これは、ISMN の国内機関の多くが ISBN 国内機関であるからです。2023 年度は、モロッコで開催されました。主な議題は、ISMN 国際機関の収支報告と国内機関の共通問題について話し合います。近年では、ISBN から ISMN への移行問題、Amazon の 20 桁コード問題などが話し合われ、国際機関を通じて解決してきました。2023 年度は、システムの改善について議論され、現在 ISMN の国際機関はシステムを変更中ですが、まもなく新しい ISMN マネージャの運用と登録者情報一覧が公開される予定です[4]。

国内機関[5]は、登録者に対する ISMN コードの割り当て、登録者の管理、登録者への連絡と技術的な支援、国内マニュアルの作成、国際機関への報告と拠出金の支払いな

どを行います。国内機関は登録者に代わり ISMN を直接個々の楽譜に割り当てることもできます。

＜写真・ISMN 国際会議　2023 年 9 月 14 日、モロッコ王立図書館、モロッコ王国ラバトにて＞

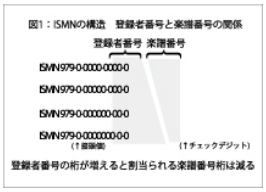
1.2　登録者と利用

登録者は、楽譜の発行者（出版社、作曲家、団体など）です。例外として、発行者の代理人や流通組織の場合もあります。登録者は、登録者情報を国内機関に提供し、国内機関から利用可能な ISMN コードを割り当てられます。個々の楽譜への ISMN の割り当てと管理は登録者の責任で行われます。

ISMN は、出版社、作曲家、図書館、研究機関、流通、小売店、その他の楽譜利用者によって、楽譜や出版社の識別、検索、確定、管理、カタログ制作のために主に利用されます。利用者は、ISMN と共に整備されるメタデータシステムにより、様々な情報の入手が可能となります。

1.3　基本構造

ISMN は GS1 規格による 13 桁の ISMN コードによって識別されます。13 桁の最初の 4 桁、979-0 は ISMN であることを識別します。次の 8 桁は、登録者と楽譜を識別します。登録者番号と楽譜番号の桁数の合計は常に 8 とし、楽譜の出版点数の多い登録者には、桁の少ない登録者番号が付与され、出版点数の少ない登録者には桁の多い登録番号が付与されます(図１)。そして、最後１桁はチェックデジットです。979-0、登録者、楽譜、チェックデジットはハイフンまたはスペースで区切られます。



1.4　使用範囲と適用

ISMN は、楽譜の発行元（出版社）、タイトル、著作者名、版、および形式（作品集、単体、セット、付属品など）、形状（紙楽譜、デジタル、ダウンロードデータ、点字など）のいずれかが異なれば別のコードが割り当てられ、これらを識別することができます。ISMN は、楽譜の形状や頒布形態（販売、レンタル、無料提供、著作権の有無など）にかかわらず使用できます。

ISMN には JAN コードのような国番号はありませんが、各出版社は所在国の国内機関に登録するため、登録者の所在国を識別しますので、間接的に楽譜出版物の国識別に利用が可能です。ISMN の使用範囲は、1) スコア、パート譜セット、個別のパート譜 2) 個別に入手可能な楽譜、曲集、記譜された音楽の出版に不可欠なメディアやその他の書類や歌詞・解説 3) 楽譜付きで出版された歌のテキストまたは歌詞、楽譜付きで出版された解説 4) マイクロフォームの楽譜出版物・点字楽譜出版物・電子楽譜出版物等です。

ISMN の版は、楽譜または歌詩・歌詞・テキスト等の変更、翻訳の追加・削除・変更、新しい形状の出版物の作成を示す場合に更新され、版ごとに個別の ISMN コードを割り当てます。

同一楽譜であっても別の登録者が複製した場合や、マイクロフォーム版など形態が違うものを作成した場合、あるいは内容は同一だが異なるタイトルの表紙によって出版されている場合は別の ISMN コードをそれぞれに割り当てま

す。1 つの作品で複数の ISMN がある場合は、そのリストを作成しそれぞれの楽譜に明記します。

ISMN の表示は OCR-B フォント（9 ポイント）を使用して ISMN が含まれるバーコードとともに楽譜の裏表紙右下に表示します。（図２）

1.5　他のコードとの関係

1.5.1 ISBN（国際標準図書番号）との関係

楽譜出版物のうち、楽譜か書籍か、判別することが難しい場合、ISMN と ISBN の両方を割り当てることができます）が、登録者が 1 種類の番号のみを使用する場合、ISMN が優先されます。楽譜が掲載されていない音楽書は、ISBN のみとなります。

1.5.2 ISSN（国際標準逐次刊行物番号）との関係

音楽雑誌や楽譜がシリーズで定期刊行されている場合、ISMN と ISSN を両方割り当てます。その際、ISMN は、シリーズ全体とシリーズ内の個々の巻にも割り当てます。

2. 日本 ISMN コードセンターと JIS 化事業

2.1 日本への ISMN 導入と日本 ISMN コードセンター設立経緯

ISMN の国際機関は、1993 年発足後、何度も日本への普及についてアプローチをしていましたが、日本では JAN（物品用コード）による楽器店流通と ISBN（書籍用コード）＋書籍 JAN による書店流通が先行確立していたことと、国内市場が主であったことから、ISMN は受け入れられませんでした。

世界では、国立図書館や政府機関が国内機関となり、参加の拠出金は各国の国家予算から支出され、ISSN や ISBN の国内機関も兼務している場合が多くなっています。ISMN の導入は図書や文化に関するインフラ整備であり公共性が高いことから、本来は国立国会図書館による国内機関の設立が望ましく、私は修士論文 (6) や学会発表での主張だけなく、ISSN の国内機関である国立国会図書館での ISMN 国内機関設置を継続して交渉しましたが、開設には至りませんでした。

一方、近年の日本の標準化は、政府主導の業界内合意を前提とした活動から、標準化の位置付けが新分野での市場創出に変わり、現在では、標準開発の加速化のためにも民間企業が主役であることが基本となっています (7)。2020 年、私が当時唯一の ISMN に関する国内研究者であったことから ISMN 国際機関から ISMN コードの国内機関として承認されました。ISMN の公共性から鑑み、2021 年に社団法人日本 ISMN コードセンター（https://www.ismn.jp/）を設立しました。

私は長年、西洋楽器のための楽譜と日本の伝統楽器のための楽譜、その両方を出版する出版社を経営しています。楽譜というと五線譜を思い浮かべる方が多いと思いますが、楽譜や音楽＝西洋音楽（五線譜）だけではありません。ISMN の対象には日本の伝統音楽のための楽譜や伝統楽器を使用した現代音楽の楽譜も含まれます。伝統楽器と西洋楽器のコラボレーション作品は世界に共感を得られる音楽で非常に魅力的で世界市場において大変価値があると思います。その一方で、楽譜出版国内市場の衰退と世界に比して楽譜や音楽情報の整備が不十分であることを肌で感じております。日本 ISMN コードセンターの設立には、その打開策として国際市場での楽譜や音楽コンテンツの世界流通と ISMN による一元情報管理は業界全体の繁栄には欠かせないという私の強い思いもありました。

2.2 目的と具体的な取り組み

一般社団法人日本ISMN コードセンターの目的は、ISMN コードの付与・管理と ISMN コードの普及活動です。当センターでは、JIS にも明記されているコード付与の手引書として ISMN コードマニュアル、JIS X0309 を販売しています (8)。そして、コードの管理付与だけでなく、楽譜に関するさまざまな公益性の高いサービスを登録者や利用者に提供していきます。

2.3　JIS 化事業

ISMN の JIS 化は、社団法人の当センターが ISMN を普及するにあたり、国内基準として公共性の高いコードであることを登録者や利用者に認知してもらうために最初に取り組んだものです。日本では楽譜に ISBN または JAN を付すことが常態化しています。このため、国際的な楽譜のデ

ータベースに日本のコンテンツが参加できず、また海外から日本の楽譜（邦楽等）の情報が見えにくい現状があります。ISMN を国内で普及させ、国際市場における日本のコンテンツの存在感の向上と、取引・流通の円滑化を図るため、ISO 10957 対応 JIS の開発を進めることとなりました。そして、経済産業省の委託事業として[9]、2021 年より原案作成委員会を設置し、2023 年 JIS 化されました。さらに現在、JIS がより一般の人に誤解を招かない文言表現にするため、改正を実施しています[10]。

2.4 システム開発

現在、二つのシステム開発をしています。一つは、楽譜および作品情報管理システムであり、もう一つは楽譜保全管理システムです。

楽譜および作品情報管理システムは、国内向けの日本語版と海外の国際メタデータへのデータ提供のための英語版を開発中です。

楽譜本体の保全・利用のためのシステムは、著作者や出版社がデータを保全し必要に応じて出し入れできるプラットホーム事業です。ISMN の付与されている楽譜データの保存と、登録者の希望に応じてダウンロードなど公開ができるシステムを関連企業とともに開発し日本語版と英語版の運用を開始しました[11]。

おわりに

国内機関設置以前より、ショットミュージック、マザーアース、全音楽譜出版社等が ISMN コードを使用しています。そして、当センターは、アカデミア・ミュージックをはじめ多数の出版社に現在計 4000 コード以上を付与しています。

ISMN コードが普及すれば、出版楽譜の正確な識別が促進されます。ISMN センター が実施するのはインフラ整備事業が主でありますから、これは広がりの土台作りです。土台ができれば、それを活用して種々のアイデアも生かされていくと思います。

また、今回の JIS 化で感じたことは、このコードに関係する業界には統一された業界団体が存在していないことです。このコードを機運に、関係する業界団体が生まれることも重要だと思います。そして、それは、決して、参加する個人や自社の利権のためでなく、真剣に楽譜出版の未来を考え、透明性があり実行できるものでなければならないと思います。

最後になりましたが、IAML 日本支部にも入会させていただき、このような貴重な機会をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

(1) 国際音楽資料情報協会（International Association of Music Libraries, Archives and Documentation Centers, IAML）英国支部が国際 ISBN エージェンシーに提案を行うことから開発された。詳細な経緯は、森洋久, 浦山迅, 岩本京子.『ISMN コードマニュアル』第 2 版. マザーアース, 2021. の p.1 参照。

(2) ISMN コードの概要は、上記の注（1）記載の『ISMN コードマニュアル』より抜粋、引用。ISMN には『ISMN コードマニュアル』と JIS X0309(ISO 10957)の 2 種類の日本語訳があるが、日本 ISMN コードセンターでは、一般の人が分かりやすい文言で訳されている『ISMN コードマニュアル』を利用者向けの業務上の概要説明として使用している。

(3) 国際機関は International ISMN Agency であり、ドイツのベルリンにある。https://www.ismn-international.org/

(4) ISMN 国際機関での会議があり、2024 年 5 月に報告を得た。

(5) 現在、67 カ国の国内機関があり、歴史的に同一市場のドイツ・スイス・オーストリアは国境を跨いでドイツ国内機関が管理しているが、その他は 1 カ国 1 国内機関である。

(6) 岩本京子.『ISO10957：2009（ISMN コード）の日本導入の意義とそれに必要な条件整備に関する考察－著作権インフラの整備に向けて』. 政策研究大学院大学学公共政策文化政策コース修士論文, 2019.

(7)「新たな基準認証の在り方について」（経済産業省、平成 29 年）、「日本産業標準調査会 基本政策部会取りまとめ–日本型標準加速化モデル–」（経済産業省日本産業標準調査会、令和 5 年）の p.32 に標準開発の主体について「市場に製品やサービスを投入する主体である企業が、その事業の成功可能性の精査や、市場への対応を図ることが我が国経済の基本であり、市場創出の観点からも有効であることから、国や独立行政法人などの公的セクターがすべての標準化活動の主役となるべきではない。」とあるように、現在新たな国内機関は民間業界団体または企業が担当している。
https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/jisho/pdf/20230620tori.pdf

(8) 他の JIS と異なり、JIS X0309 の著作権は日本 ISMN コードセンターが所有するため、自身での販売が可能。JIS X0309 に関する問い合わせも、日本規格協会ではなく、日本 ISMN コードセンターとなる。

(9)「産業標準化推進事業委託費、戦略的国際標準化加速事業：産業基盤分野に係る国際標準開発活動、テーマ名：国際標準楽譜番号（ISMN コード）普及促進のための JIS 開発」経済産業省、令和 3 年、令和 4 年。

(10) JISC 日本産業標準調査会. 作業計画・作成状況　改正　情報技術. X0309 国際標準楽譜番号（ＩＳMN）
https://www.jisc.go.jp/app/jis/general/GnrWorkScheduleCreationInformation?show&pubNoticeCD=002&jiscCmtID=1000000950

(11) 詳細は日本 ISMN コードセンターにお問い合わせください。

（岩本（いわもと）　京子（きょうこ））

日本 ISMN コードセンター　代表理事

事務局だより

〇2024 年 IAML 日本支部総会案内

日時：2024 年 6 月 1 日（土）13：00～14：00

開催方法：オンライン（参加用 URL は、出席のお返事を頂いた方に対して、総会日前にお送りいたします）。

5 月 28 日（火）までに、下記のリンクから form にアクセスして、出欠についてお知らせください。総会を欠席される場合は、form 内で委任状をお出しいただきますようにお願い申し上げます。総会資料につきましては後刻アップロードいたします。

〇第 75 回例会案内

日時：2024 年 6 月 1 日（土）14:30-16:00（講演 60 分、質疑 30 分）

開催方法：オンライン（Zoom）

テーマ：曲がり角を迎える図書館の目録について（1）「国立情報学研究所の NACSIS-CAT を巡って」

講師：高野真理子氏（特定非営利活動法人　大学図書館支援機構）

内容：国立情報学研究所の NACSIS-CAT は大学図書館を中心とする我が国有数の書誌ユーティリティであり、大学図書館における目録の作成と提供の基盤となっています。NACSIS-CAT では、今まで利用されてきた目録規則である NCR1987 年改訂版と AACR2 を 2024 年中に NCR2018 年版に切り替える予定です。既に実施されている CAT2020 の運用と合わせて大きな変化を迎える NACSIS-CAT の今後について、大学図書館支援機構での目録関連の講習のご経験を踏まえてお話いただきます。

定員：80 名

参加費：1,000 円（支部会員およびフレンズは無料）

〇IAML 年次大会

期間：2024 年 6 月 23 日～28 日

開催地：南アフリカのステレンボッシュ

参加申込の締め切り：2024 年 6 月 14 日

参加申込：2024 IAML Congress

注意：開催国の南アフリカ共和国は、外務省海外安全ページにおいてレベル 1「十分注意してください」の危険度とされています。充分にご留意の上、渡航をご検討ください。

〇会費納入のお願い

2024 年 11 月中に、2025 年度（2025 年 1 月～2025 年 12 月）の会費納入の書類を送付予定です。支部の円滑な運営のため、できるだけ早い納入にご協力を賜りますようお願い申し上げします。お問い合わせは、会計・野川（nogawa★tohomusic.ac.jp;メール送信の際は★を＠に変えてください）までお願い申し上げます。

〇ニューズレターの公開

77 号（2023 年 11 月 20 日発行）よりニューズレターは、発行後 1 年間は「支部会員およびフレンズ」のみが独占的に閲覧可能なよう、運用が変更されました。一般公開は、刊行後 1 年を経たものから順次行われます。刊行から 1 年に満たないバックナンバーを閲覧の際には、本支部ホームページの専用ページにアクセスいただき、事務局から会員宛に通知されている ID、パスワードを使っていただくことになります。よろしくお願い申し上げます。

Newsletter - 国際音楽資料情報協会日本支部
第 78 号
（2024 年 5 月 31 日発行）

国際音楽資料情報協会（IAML）日本支部
〒182-8510　東京都調布市若葉町 1-41-1
桐朋学園大学附属図書館内
（担当：田中）
https://www.iaml.jp